

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 香月 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

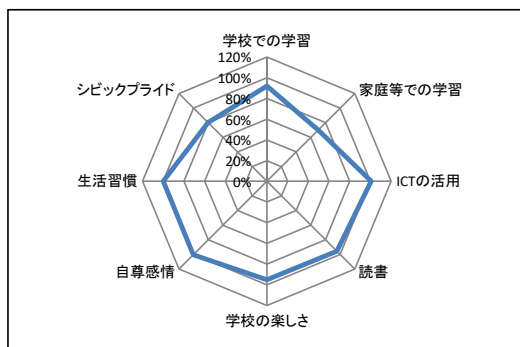
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全項目で全国平均を下回っている。特に読むことに関する問題の正答率が低く、短答式・記述式の問題においては、無回答率も高い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて、必要な情報を見つけることができるかを見る問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	全項目で全国平均を下回っている。特に測定に関する問題の正答率が低く、短答式・記述式の問題においては、無回答率も高い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	角の大きさについての問題	
	努力が必要な問題	質問に対してグラフから判断し、言葉や数を用いて記述で回答する問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	全項目で全国平均を下回っている。特にエネルギーを柱とする領域に関する問題の正答率が低く、短答式・記述式の問題においては、無回答率も高い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	実験の条件整理に関する問題	
	努力が必要な問題	身の回りのものについて、磁石に引き付けられるか、電気を通すかについて尋ねる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析

- ・本校で取り組んでいるICTの活用や話し合い活動を重視した学習スタイルの推進が、ICTの活用や学校での学習に良い影響を与えている可能性があるため、これからも学校全体で授業改善に取り組む必要がある。
- ・家庭での学習等については、全国平均を大きく下回っているため宿題や自主学習等を通して、家庭学習について啓発をしていく。
- ・読書時間の確保や、読書の仕方の工夫を行うことで、読書が好きと回答した児童の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- ・「人の役に立ちたい」や「自分には、よいところがあると思う」など自尊感情に関する項目では、全国平均を大きく上回っているところもあるので、今後も学校全体で自尊感情を高める取組を考え、実施していく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

算数科を中心に「話し合う活動」に重点を置いた授業を行うことで、児童一人一人が、自分の考えをもち、それを周りと交流しあえる学習に取り組めるようにしていく。また、ICTの効果的な活用を図り、分かりやすい授業づくりに努めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

児童が、家庭での学習を計画的・効果的に取り組むことができるように、①タブレット端末の週末の持ち帰り
②ドリルアプリの効果的な活用をする。また、自主学習の啓発や奨励、家庭への呼びかけをしていく。